

青少年アピール文

2024/10/21 現在
23校・16アピール
浄土宗教学部

【大学・短期大学】

埼玉工業大学

私たちの未来を切り拓くために、法然上人の教えを胸に抱き、自己の成長だけでなく、他者との共生を重んじた生き方を選びましょう。現代社会は多様な価値観や課題で満ちていますが、どんな状況でも「ともいき社会」を実現するためには、まず自分自身が心を開き、周囲の人々とのつながりを深めることが重要です。私たち一人ひとりの幸せは、他者の幸せと密接に結びついています。だからこそ、志を持ち、夢を追う中で、周囲の人々の存在を大切に、共に支え合う道を選びたいと思います。他者を思いやる心を育むことで、私たちの社会はより豊かに、温かくなっていくでしょう。また、日々の中で、仏様の大きな力に感謝し、その教えを生活に生かすことも忘れずにたいです。自分自身の命の根源を見つめ直し、感謝の気持ちを持って、周囲の人々や自然と調和した生活を心がけることで、真の幸せを実感できるはずです。これからも心を開いて、共に生きる喜びを分かち合い、未来に向かって希望を持って進んでいきましょう。

工学部 情報システム学科 1年 林 勇

京都華頂大学 華頂短期大学

私たちは、家族や友人たち、様々な人々に支えていただいて、「大学」という社会に出る前の最後の教育機関に入学させていただき、日々学業に励んでいます。

そしてその中で法然上人のみ教えを学び、私たちを救ってくださる阿弥陀様のお慈悲を頂戴できることを学び、このうえない喜びを感じることができました。

また、若くして志を立て、その信念を曲げることなく浄土宗をお開きになられた法然上人の生涯を学び知り得たことは、社会へと飛び立つ私たちのこれからの人生の不安を和らげ、強く心の支えとなる大きな翼を手に入れた感覚を覚えました。

そして法然上人のみ教えにならい、自分だけの幸せを求めるのではなく、他者への思いやりを実践してこそ、自分のため、世の中のためとなって、自分の幸せを得られることを忘れず、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

【中学校・高等学校】

酒田南高等学校

生きているからには、困難や苦しみに直面することがあると思います。

そのような時こそ、仏教の教えを思い出してみてもいかがでしょうか。

私たちは生まれてからずっと一人ではなく、周りにいるたくさんの人に支えられて生きてきました。そして、これからも支えられて生きていきます。そんな私たちのことを仏様はいつも見守ってくださっています。また、「南無阿弥陀仏」と唱えることで心が落ち着き、どんな不完全な人間であっても無条件に受け入れてもらえます。だからこそ、いつも安心して前に進んでいくことができるのです。

浄土宗の教えのように私たちは一人ではありません。共に生きる仲間たちと手を取り合いながら、明るい未来を作っていくことができると思います。出合いを大切に誰もが幸せである「ともいき社会」を築いていきます。

第2学年 三井 ほのか

樹徳中学校 樹徳高等学校

私たちは、今大変恵まれた生活を送っています。けれども、あれが嫌だ、これが嫌だと言いがちです。他方、世界に目を向けると、その日の食事にも困り、ましてや学校にも行けない子供たちが沢山います。

私たちの世界に貧困や格差が存在していることは、決して望ましいことではありません。このような状況を踏まえ、私たちは、「共に生きる」大切さに気付き、まずは身近な人々の存在をお互いに思いやり、人々のお役に立てるような行動をしていきたいと考えています。そして、毎日学校で唱えている、「南無阿弥陀仏」のお念仏を選び取られた法然上人のみ教えをより一層理解し、将来、すべての人々が幸せに生活できる社会を目指して、日々努力を継続していきます。

樹徳中学校 樹徳高等学校

淑徳巣鴨中学・高等学校

法然上人は、比叡山延暦寺で厳格な修行を行っていました。そこで、高度な仏教学を学びました。しかし、どんなに厳しい修行を行っても、悟りを得ることができず、人間の煩悩の深さと修行の難しさの壁に直面しました。そこで、法然上人は「南無阿弥陀仏」と、お念仏を唱えることで、だれもが極楽浄土に往生できると確信するようになります。そして、自己の救済と他者の救済が一体である「自利即利他」の境地に到達しました。この教えは現代の日本社会においても、多くの人々に共感をもたらしました。

現代社会では教育機会の不平等や経済格差があります。これらの不平等と対比して「理想の社会＝ともいき社会」は、すべての人々がともに生き、支え合い、平等な機会を享受できる社会のことです。つまり、私たちは単に自己の利益を追求するのではなく、他者や自然との共存を大切に、調和のとれた生活を送ることが必要だということです。

今まさに、世界全体が協力し合い、貧困や不平等、気候変動などの課題に取り組むことを目指すSDGs が提唱されています。これにより、誰一人取り残さない社会を目指すという「共生」の考え方が強調されています。SDGs の目標に基づいて「ともいき社会」を目指すことで、不平等が解消し、すべての人々がともに生き、持続可能な社会を築くことができると思います。

私は、生徒会役員として活動を行うにあたって、全校生徒で力を合わせて取り組むことで、皆に喜んでもらえることが自分の喜びになると実感しています。その中で、互いを信頼し、尊重し合うなど目に見えないものに支えられていることに改めて気づくことができました。

そのため、私たちは生かされているご縁に感謝し、他の恩恵によって今日ある自分を、他のために役立てていきます。

令和6年10月31日

淑徳巣鴨中学高等学校

代表 中学3年 陶 宇希 橋本 心優

小石川淑徳学園中学校高等学校

「青少年アピール」

いまだ、社会では男女や人種による差別が無くならず、世界では戦争が起こっています。

そんな中、私たちがこれから目指すべき社会は、多様性を認め、お互いがお互いを思いやり、尊重し合い、苦手なところを助け合いながら他者と共に協力して生きていける社会です。そのためには、まず一人ひとりがその意識を持ち、みんなが同じ意識を持って行動していくことが大事であると私たちは考えます。

その上で、私たち一人ひとりが将来の目標を定め、そこに向かって絶え間ない努力をしていきます。

小石川淑徳学園中学校高等学校

芝中学校・芝高等学校

私たちは芝学園第三代校長渡邊海旭先生が示した校訓である「遵法自治」を念頭において学校生活を送っています。法をより所とし、法の光を受け取ることにより、自己も輝きを発して自分自身をより所とすることができるようになるというのが遵法自治の教えです。法や規律に従い、自主・自律の態度で自ら行動を起こすという「遵法自治」の考えは、すべての人々は平等であり、自分の幸せだけでなく他の幸せも重んじる法然上人の「共生」の精神にも通ずるところがあります。

これからを担う私たちはいかなる困難に直面したとしても、「遵法自治」と「共生」の精神を大切に、この教えを後世にも受け継いでいきたいと思ひます。

芝中学校・芝高等学校 高二 金子敬音 高一 寺浦仁優 伴拓海

東海学園高等学校

「教育の場で「ともいき」や「自利即利他」を学び、自己理解と他者の理解を深める。その上で、差別や偏見を解決すべく、自他共に思いやり、行動を起こす。」

浄土宗からのメッセージに対し、クラスから持ち寄った意見を合意形成する事で上記の回答となりました。近年、グローバル化の進行に伴い、多様性が叫ばれる世の中に变化して来ました。他の国と比べても宗教や価値観が異なる人々への理解が浅い日本にとって、適切に多様性の考えを進めていくためには、自他ともに支え合って存在していることを認識し、個々の幸せを願う「ともいきの考え」が必要ではないでしょうか。そして、この考えを広げていくために、私たちが出来ることは、教育の場で「ともいき」や「自利即利他」の概念を学び、自己と他者の理解を深め、差別や偏見を解決すべく、自他共に思いやり、行動を起こす事だと思ひました。自他共に理解の幅を広げ、深い人間理解を有する者として社会に貢献する人間となる為、様々な問題に対し思考を重ねていける人間となっていきたいと思ひます。

華頂女子高等学校

私は華頂高校に入学して、知恩院を知り浄土宗の総本山の御膝元に毎日通うことができる幸せを感じています。また校訓である「和顔愛語」にならない日々笑顔で、愛のある言葉を心掛けています。私たちは、ごく普通に現代社会を生きてきましたが、自己と他者がともに生かす「ともいき社会」にするために、すべての人が幸せな人生を生きられるのは当たり前ではないことがわかりました。まずはクラスの生徒と手を取り合い、相手を重んじ慈愛の心を持ち、多様性を認め合いながら助け合っていきたいと思ひます。この小さな取り組みから、世界中の人々が助け合える「ともいき社会」を目指していきます。

私は法然上人のみ教えを心に刻み、今後の人生を歩んでいきます。

華頂高校 3年1組 荒井 心

東山中学校

共に生きる。この言葉は東山中学校・高等学校の記念碑に刻まれている金澤翔子さんの標語です。「共に生きる」の考え方は「ともいき社会」の実現に大切な心得となります。平安時代末期、争いが絶えず人々は混乱に陥っていました。そこで、人々を救おうと法然上人は幼くして修行に励み、誰もが救われる社会の実現に努めました。法然上人の厚意や階級関係なく縁を結ぶ、序列に囚われない強い心、理論だけでなく実践を大切にする生き方は人々の模範です。現在の世界は戦争や紛争、貧困、ジェンダーなどの問題を抱えています。この問題解決の全てに共通することは他人への思いやりです。「ともいき社会」の実現には世界情勢を理解し、世界の人々と心の中で繋がり、寄付をして貧困支援を実際に行うことが大切だと考えます。「ともいき社会」は一人では実現できないため、全員で一体となります。その時点で「ともいき社会」は実現できているのではないのでしょうか。

2年B組 12番 佐々木 辰知

東山高等学校

私は東山高等学校に入学して法然上人から慈悲の心というものを学びました。なぜかという法然上人は、座主というなかなかない地位になること勧められたり、智慧第一の法然房と讃えられるほどの能力を備えた人であったので、難しく厳しい修行をおさめられることは誰にでも想像がつかます。しかし、法然上人は、仏教というのは誰もが平等に参加できることが大事ということを最も重要視しています。つまり阿弥陀さまの慈悲は平等であり、それと同じようにこれは、かたよった見方をせず、見る立場によっていろいろなものの価値が変わる、だから貧富や性別は関係のないみんな同じ念仏、平等の念仏をすること大切なのです。

法然上人がつくられた浄土宗の歌であるつきかげの最後のほうに、「眺むるひとの心にぞすむ」とあるように、我々の「心の持ち方」がとても大事で、この心の持ち方や見方しだいで、人生は全く違うものへと変わります。そして、つきかげの歌は、いつも東山中学高等学校では毎日チャイムとして鳴り、また、行事の初めにはみんなで歌っていますが、この法然上人の気持ちを学校や知恩院で学べたことをとてもうれしく思っています。しかし、学んだことだけではなく、この意味をみんなにも理解してもらわなければなりません。自分だけではなくお互いが良い方向に進むことこそが、仏教の立場でいう平等、「ともいき」です。

最後に、本日、縁あってこの法要に参加している全国のみなさんと一緒に、ぜひ「ともいき」の精神をおこない、法然上人に喜んでもらえたら嬉しです。。

3年7組 18番 中安 哲晟

京都文教高等学校

「自分の幸せだけでなく、他のみんなの幸せも思う」という部分に納得した。
小さくても大きくても、もめ事の元となるのは他人のことを考えない自己中心的な考え方だと思う。
少しでも相手のことを考え、譲歩する気持ちが互いにあれば、対立は起こらないのではないだろうか。
人が一人では生きられない以上、「共生」という概念は必要不可欠であると思う。
そして、一人ひとりがその考え方を大切にすべきだと私は考える。

2年 森 彩楓

上宮学園中学校 上宮高等学校

「これから生きる私たち」

わたしたちは、この世に生まれ今日まで育ってきました。その中で浄土宗の宗立宗門校に入学し仏縁に巡りあうことができました。
法然上人は、強い志を持ち、仏の教えより救いの道を追い求められました。それに習いこれからの人生で強い志を持ち自らの道を切り開くチャレンジをしていきたいと思っています。
法然上人の父である時国さんは、法然上人に「どんな時でも相手を恨まず思いやる気持ちをもつように」と遺言を残されました。これから争いのない平和な世界が訪れるように、わたしたちも、その優しい心を持つことで「ともいき社会」への一歩を築いていけると 생각합니다。
仏様により生かされていることに感謝し、その命を大きく育てこれからの未来に種をまいていきたいと思っています。

上宮太子高等学校

「ともいき社会」とは、学校生活における自分と友達、仲間との共存、共栄のことだと思います。それは勉強、クラブ活動を通じて協力し合い、共に同じ目標に向かって努力することに置き換えられます。
法然上人が「智者のふるまいをせずして」と申されたように、自分は偉い、他の人を見下げるような心は慎むべきです。
相手の意見、主張を理解し、共に協力して理想とする社会を実現することが大切です。学校生活での勉強、クラブ活動での努力を地域のために活かしていくことが、ともいき社会を実現する道であると思いました。

鎮西高等学校

私たちは、一見すると何気なく日常を過ごしているかのように思いますが、実はご先祖様から未来へ繋がっていく命の中で、日々、多くの命とともに生かされていることに気づかされます。私たちは、人が自分だけの力で生きているわけではないことを自覚し、どんな時も謙虚さと感謝の心をもって多様な人々と協力して生きていくことが大切なことだと思います。

この先、私たちが社会人になったとき、「ともいき社会」の一員として私は、一人ひとりが輝ける社会を実現するためにも、誰もが持つ自分の長所を通して社会に貢献できるような働き方をすると良いのではないかと思います。その上で、今自分ができることを精一杯頑張り、将来、子どもたちに道を示したり、夢を与えたりすることができるような社会人になれるよう努力していきたいと思っています。

鎮西高校

真和中学・高等学校

「私たちの報恩感謝」

法然上人のお歌である宗歌「月影」の月の光は親、社会の人たち、国、仏法を通して仏様の慈悲の光として私たちを照らしています。この光に照らし出されることで、私たちの周りの人たちだけでなく、名前や顔を知らない多くの人たち、ありとあらゆる生物のおかげで私たちは生かされていることに気づかされます。このようなつながりの中で私たちは感謝を忘れず、一日一日を大切に精一杯、学んでいきます。また、様々な価値観を認め尊重することで、私たちの言葉や行いが他の人々への光となることを願い、すべての人たちが幸せとなる「ともいき社会」の実現に向けて私たちは務めていきます。

令和6年10月31日

真和中学・高等学校 生徒一同

以上